

「薬剤耐性へらそう！」応援大使賞受賞 ～SDGsの一つAMR対策への神戸大学の取り組み～

都市安全研究センター
教授 岩田 健太郎
准教授 大路 剛

2018年11月に、神戸大学医学部附属病院 抗菌薬適正使用支援（Big gun）プロジェクトチームが、第2回薬剤耐性（AMR）対策普及啓発活動の「薬剤耐性へらそう！」応援大使賞（篠田麻里子さん）を受賞しました。この賞は、薬剤耐性（AMR）対策の普及啓発活動の取組事例を広く募集し、優良事例を表彰することで、薬剤耐性（AMR）対策に係る自発的な活動を喚起奨励し、また、各分野における活動の参考となる事例を示すこと等により、薬剤耐性（AMR）対策の全国的な広がりを促進することを目的として2017年度に開始されました。

2030年へ向けて国連は持続可能な発展目標を意識した Sustainable Development Goals（SDGs）を挙げています。様々な項目が含まれていますが、特に医療の中では抗菌薬への耐性：Antimicrobial resistance：AMR があげられており2016年の伊勢志摩サミットでも強調されています。この問題の解決としては限られた武器である抗菌薬を大切に使う事、すなわち抗菌薬の適正使用が一つの手段となります。この問題に対して神戸大学医学部附属病院において多職種で取り組み、かつ地域の他医療機関への教育も行っていました。この点が評価され、今回の受賞につながっております。SDGsとして強調される前から行っていた活動が評価されたことが重要だと考えています。

今回受賞した抗菌薬適正使用支援（Big gun）プロジェクトチームは、2010年3月に神戸大学都市安全研究センターの岩田健太郎教授、大路剛准教授の医学部附属病院感染症内科、感染制御部、薬剤部が共同で開始した広域抗菌薬のチェックシステムで、医学部附属病院病院長直轄のプロジェクトチームです。臨床感染症は感染臓器、抗菌薬、微生物の3つのトライアングルで成り立っています。感染臓器は医師や看護師、抗菌薬は薬剤師、微生物は臨床検査技師というまさにチーム医療の代表的な疾患群でもあります。多職種連携で進めていけていることがメンバーは変わりながらも継続し続けてきている要因だと考えており、前述したように同様のシステムを関東中部地方から西日本の地域の基幹病院にも見学に来ていただき、紹介してきたことも評価されております。

第2回薬剤耐性（AMR）対策普及啓発活動表彰式

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg18171.html?t=124&a=1>

【問合せ先】

都市安全研究センター 准教授 大路 剛

TEL：078-382-6297

E-mail：ohji@med.kobe-u.ac.jp